

2009 年 2 月の東北地方の天候

【 2 月の特徴 】

- 高温
- 少雪

(1) 2009 年 2 月の概況

この期間、低気圧や前線が短い周期で通過し、天気は数日の周期で変化した。中旬後半に一時強い寒気が南下して冬型の気圧配置が続いたほかは、寒気の影響は小さく高温、少雪となった。なお、7 日は寒冷前線の通過に伴って大気の状態が不安定となり秋田県で竜巻による突風災害が発生した。また、13 日から 14 日にかけてと 20 日から 21 日にかけては、低気圧が発達しながら北日本を通過した影響で大荒れの天気となった。

月平均気温は東北地方で高い。月降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。降雪の深さの月合計平年比は東北日本海側で 47% とかなり少なく、東北太平洋側で 35% とかなり少ない。

(2) 各旬の天候経過

上旬：低気圧や前線と高気圧が交互に通過し天気は数日の周期で変化した。天気の崩れは小さかった。また、低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置となったが、寒気の南下は弱く、気温の高い日が多かった。なお、7 日は寒冷前線の通過に伴って大気の状態が不安定となり、秋田県で竜巻による突風災害が発生し、寒冷前線の通過後は一時冬型の気圧配置が強まったため、8 日には宮城県で強風による交通障害などが発生した。

平均気温は東北日本海側でかなり高く、東北太平洋側で高い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。日照時間は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。

中旬：期間の前半は低気圧と高気圧が交互に通過し天気は数日の周期で変化した。期間の後半は冬型の気圧配置となる日が多かった。13 日から 14 日にかけては低気圧が発達しながら北海道付近を通過した影響で大荒れの天気となり、秋田県で大雨と融雪による山がけ崩れ害や浸水害、宮城県で強風による交通障害などが発生した。期間の前半は高温で経過したが、14 日の低気圧通過後は強い寒気が南下して低温となるなど寒暖の変動が大きかった。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。

下旬：本州の南岸と北海道付近を低気圧が短い周期で通過した。東北南部は南岸低気圧や前線の影響を受け曇りや雨または雪の日が多かったが、東北北部は低気圧や前線の影響が小さく降水量が少なかった。なお、20 日から 21 日にかけては、三陸沖を発達しながら北東進した低気圧と日本海を東進した低気圧が千島近海でひとつにまとまってさらに発達したため、大荒れの天気となり、青森県と秋田県で強風により建物被害や停電、交通障害などが発生した。

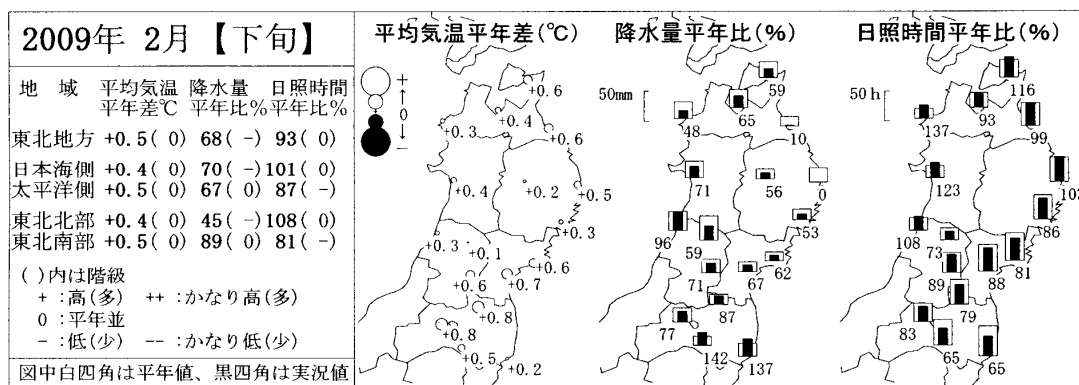
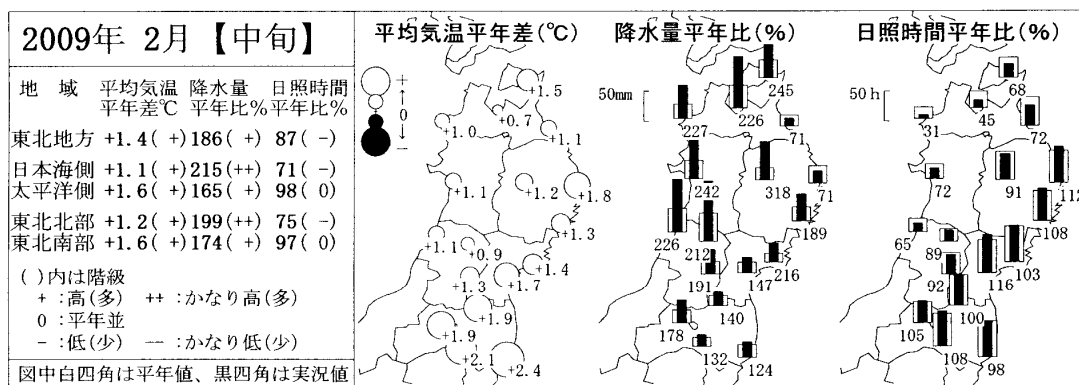
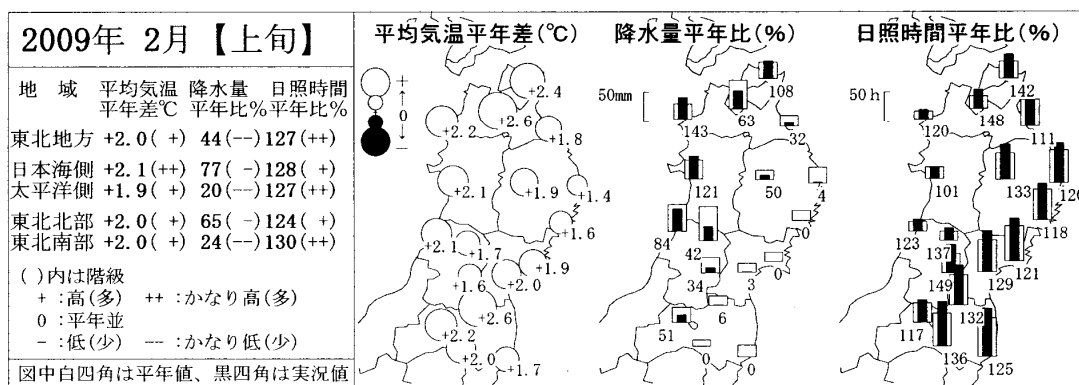
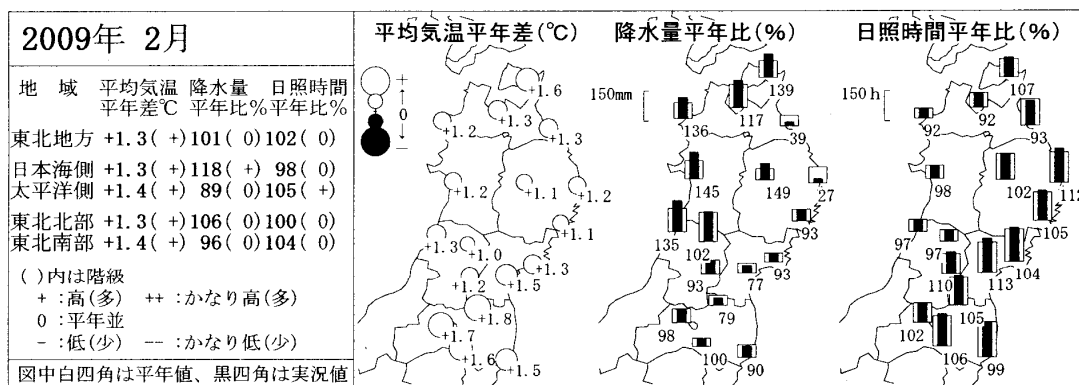
平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で少ない。

(注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2009年2月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2009 年 2 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級 (℃) (℃)	降水量(平年比) 階級 (mm) (%)	降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級 (h) (%)	降雪深さ(平年値) 階級 (cm) (cm)	最深積雪(平年値) 階級 (cm) (cm)
青 森	0.2 (+1.3) +	135.5 (117) ○	18	67.1 (92) ○	93 (205) —*	50 (111) —*
深 浦	1.0 (+1.2) +	105.5 (136) +	16	45.0 (92) ○	53 (114) —*	16 (42) —
む つ	0.1 (+1.6) +	118.0 (139) +	17	97.8 (107) ○	87 (160) —	19 (66) —*
八 戸	0.4 (+1.3) +	20.5 (39) —	7	123.1 (93) ○	34 (103) —*	11 (28) —
秋 田	1.4 (+1.2) +	133.5 (145) +*	20	64.6 (98) ○	68 (120) —*	15 (37) —
盛 岡	-0.5 (+1.1) +	82.0 (149) +	10	131.2 (102) ○	52 (98) —	27 (33) ○
大 船 渡	2.0 (+1.1) +	54.0 (93) ○	6	149.4 (105) ○	9 (27) —	6 (9) ○
宮 古	1.5 (+1.2) +	21.5 (27) —	3	169.9 (112) +	10 (72) —*	22 (29) ○
仙 台	3.2 (+1.5) +	37.5 (77) ○	4	170.9 (113) +	11 (31) —	9 (13) ○
石 巻	2.2 (+1.3) +	41.0 (93) ○	4	168.6 (104) ○	1 (24) —*	21 (13) +
山 形	1.0 (+1.2) +	65.5 (93) ○	13	109.2 (110) +	67 (147) —*	37 (46) ○
新 庄	0.0 (+1.0) +	148.5 (102) ○	21	54.8 (97) ○	145 (242) —*	100 (123) ○
酒 田	2.7 (+1.3) +	155.5 (135) +*	24	58.2 (97) ○	54 (119) —	29 (30) ○
福 島	3.6 (+1.8) +	39.5 (79) ○	8	151.8 (105) ○	19 (73) —*	8 (18) —*
若 松	1.3 (+1.7) +	69.0 (98) ○	16	99.5 (102) ○	45 (160) —*	10 (46) —*
白 河	2.1 (+1.6) +*	41.5 (100) ○	4	161.2 (106) +	30 (51) —	13 (14) ○
小 名 浜	5.2 (+1.5) +*	55.5 (90) ○	5	172.4 (99) ○	()	()

(注) 1. 平年値は1971～2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+ : 高い (多い) ○ : 平年並 - : 低い (少ない)

各階級の区分値は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1971～2000年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に*を付加した。この場合には

かなり高い (多い) かなり低い (少ない)

と表現できる。

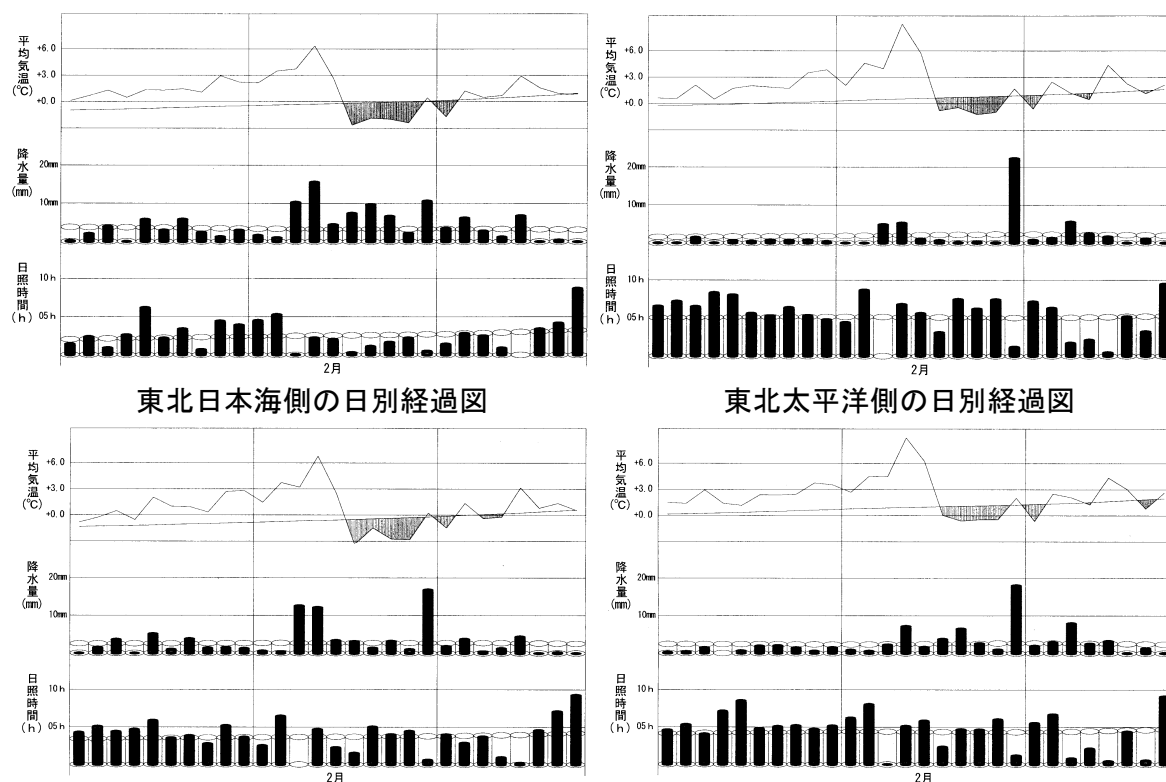
また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に「) や]」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

4. 小名浜測候所が平成20年10月1日に特別地域気象観測所へ移行したことに伴い、小名浜の降雪および積雪の観測は終了した。

(5) 2009 年 2 月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(6) 2009 年 2 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新
3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新
3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新
3 位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新
3 位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新
3 位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新
3 位以内はなし

降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新
3位以内はなし

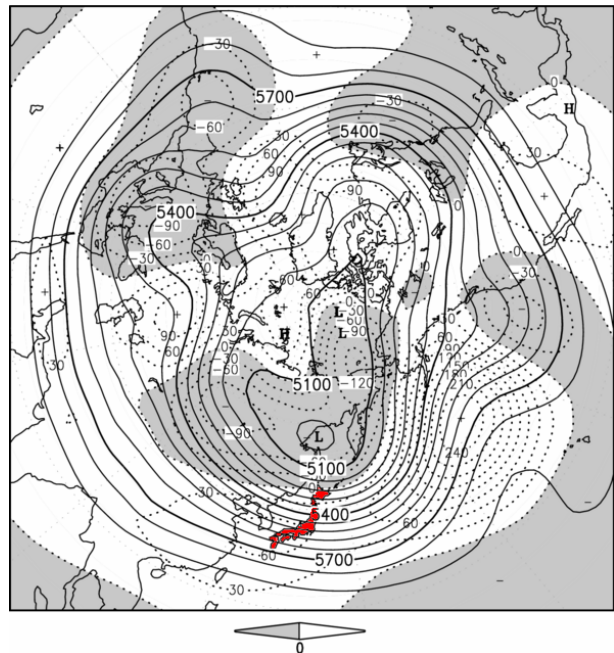
月最深積雪大きい方からの順位更新
3位以内はなし

(注) 平年値とは 1971～2000 年の 30 年間の値を平均したものである。

(7) 2009 年 2 月の循環場の特徴

500hPa 高度では、北太平洋東部の正偏差が顕著。中央シベリアは負偏差で、シベリアの地上高気圧が平年より弱く、冬型の気圧配置が長続きしなかったことに対応している。また、日本付近は、黄海付近に中心をもつ正偏差におおわれたため、寒気の影響を受けにくい大気の流れとなり、気温の高い日が多かった。

一方、オホーツク海付近に極渦があり、千島近海にかけて負偏差となった。中旬の後半に一時強い寒気が南下したことに対応している。



2009 年 2 月の平均 500hPa 高度

実線は等高度線：60m 毎、点線は偏差：30m 毎
陰影部は負偏差（寒気に対応）